

第五回関東保育研究会

高橋 壽美 夫

第五回関東保育研究会は若葉薫る四月二十四日から三日間群馬県と県教委及高崎市と共同主催をこれに県(市)社会福祉協議会協力後援の下に高崎市立女子高等学校に開催された。文部省からも厚生省からも係官の臨場のなかつたことは年一度の大会だけに淋しいことであつたが、日保連から副委員長秋田美子女史のお見えになつたことは参会者一同の気をよくするに充分であつた。参加施設と人員を表示すると次の通りである。

	(県内)	(他府県)	(計)
一、参加施設	幼稚園 二四	三九	六三
	保育所 二二	一三	三四
	幼稚園 一二四	六二	一八六
二、参加人員(会員)	保育所 九七	一九	一一六
			三〇二

右の表によつて明かのように保育所参加の相当多いこととかく風評のある両者間のわだかまりの如きものは関東地区に関する限り憂慮すべき何もないことを事実の上に立証したわけである。

日程第一日は午後一時の開会式に始まり主催者側の挨拶、来賓祝辞の後二十年以上勤続者十五名の表彰があつた。ついで経過報告と日程説明があつて研究協議に入る。ここで関東大会の模様的一端を内容的にのぞいて見ることにするが積極的な場面の御想像を願いたい。

研究協議題

- 一、幼児期に於ける道徳教育について……略
(東京都清島幼稚園長 松石治子氏)
- 二、郡県単位の保育園のあり方
(埼玉県浦和幼稚園長 長沼依山氏)

○提案理由(長沼氏)「むしろあり方について詳しく述べ
る。なるべく早く連合体になる必要がある。幼稚園と保育
所のむつかしいそして悲しむべき犬猿の仲は矯正されねば
ならぬ。この関東の都県だけはせめて大乗の見地から大同
団結してゆきたい。それには先ず反省すべきである。私立
のもの、団結公立のそれが埼玉ではあるが横の連絡もとつ
ている各県の状況をお知らせ願いたい。日保連の人もいる
ので意見をききたい」

○東京都、K氏「東京では私公団結している。日保連以前
からである。非常に仲よくしている。……」

○神奈川県、E氏「協議会と協会とが合同して団結してい
る。自ら称して模範的な経営団結している。意見の対立
は夫婦の仲にもあるが神奈川県はうまくいっている。…
…」

○千葉県、O氏「保健連盟、幼稚園協会、私立幼稚園連盟
の三者が去年千葉県保育連合会をつくつた。つくつてか
ら別に仕事もしないがけんかをしない。……」

○栃木県、B氏「戦争前は一緒にしていた。戦後保育所も
ふえて別になっている。団結の提案はしたがまだ連合体にな
では進まない。猶、交渉努力を続行中である。……」

○群馬県、S氏「保育所は公私五十三、幼稚園公私二十四
でありその中、県保育会へ四と二十二の参加がある。規
模は小さいがスムーズに堅くやつている。本大会には加

入施設以外もたくさん協力している。然し皆団結を欲し
ているように感ぜられる。現場のものは組織如何にかか
わらず団結しようとしてるように見受けれる。」

○日保連、D氏「日保連の現状は仙台大会以来皆様に心配
されている。社会福祉協議会児童部の仕事の中に保育所
の全国的機関を作るについて何か摩擦があるように感ぜ
られているが、厚生省としても日保連の団体をどうこう
しようとするのである。新しい誕生に当つてじん痛のあ
るのは当然である。保健連合体を脱退して全国的のもの
を作るのだとゆうのは誤解であり時間的に解決出来る
とゆうのが根本的の見方である。……日本独立後の負算の
決定は革命的であるがその波動が直接に吾々に響いてい
る。自分達で作つた吾々の団体を作りあげよう。根本理
念は誰からも制約さるべきものでない立派なものであ
る。……」

○埼玉県、長沼氏「その地その土地にふさわしい団体の出
来るよう念願するものである」(以下協議略)

つづいて国沢博教授の「幼児の精神衛生」と題する講演
があり初日を終る。

第二日は午前九時から開会、五都県一粒えりの選手によ
る研究発表と昨日に続く協議がありこの間には更に志村二
郎教授のアメリカの幼児教育について講演もあり忙しい進
行の中に盛会裡に大会の幕を用ざる。(群馬県保育会幹事)